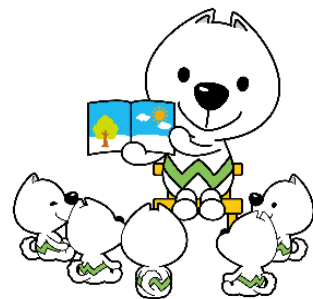


令和4年度 読書推進フォーラム

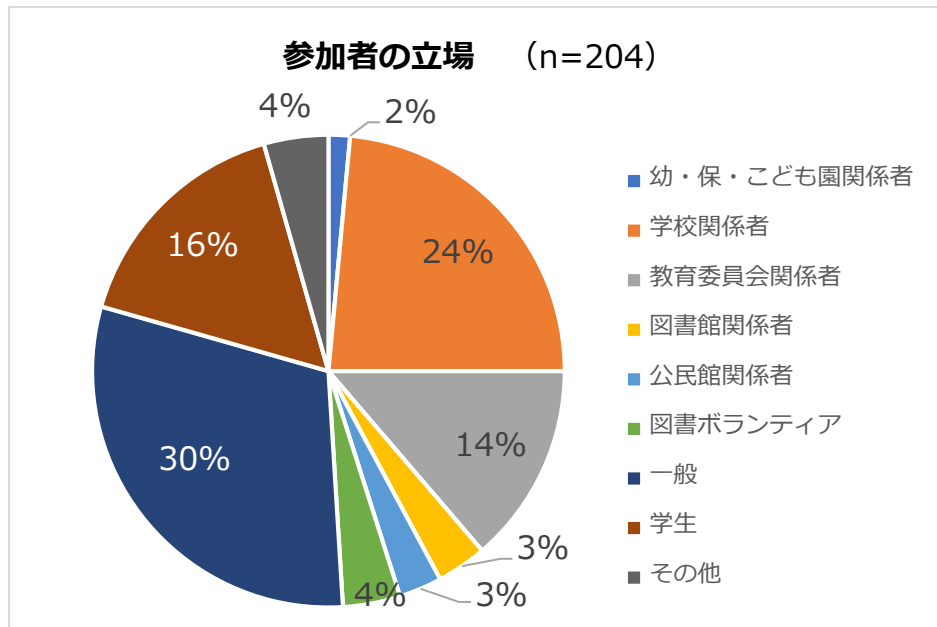
「ちょっと本でも読んでみようかな」のために

アンケート集計  
【全回答】

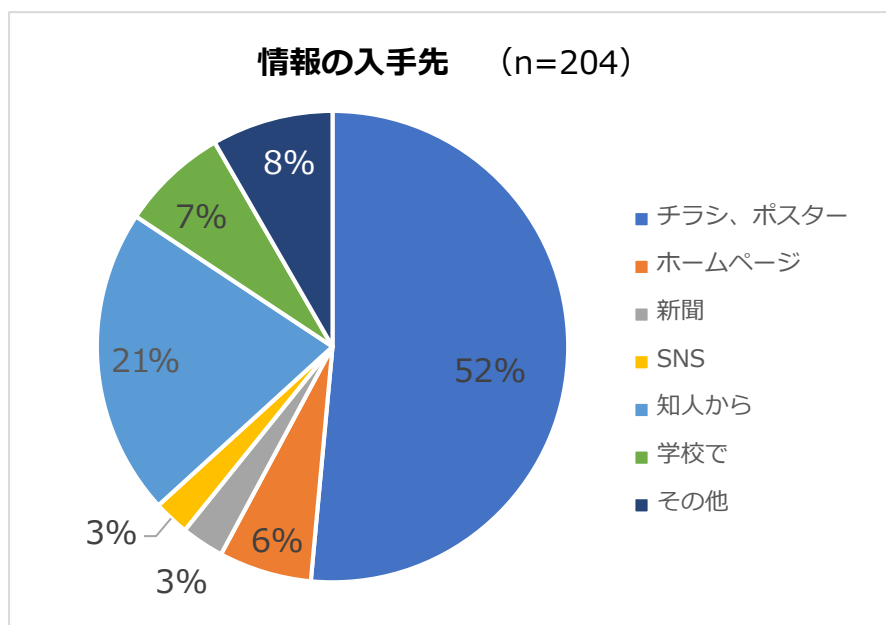


## 令和4年度 読書推進フォーラム アンケート

### 1 本日のフォーラムにはどのような立場で参加されましたか。

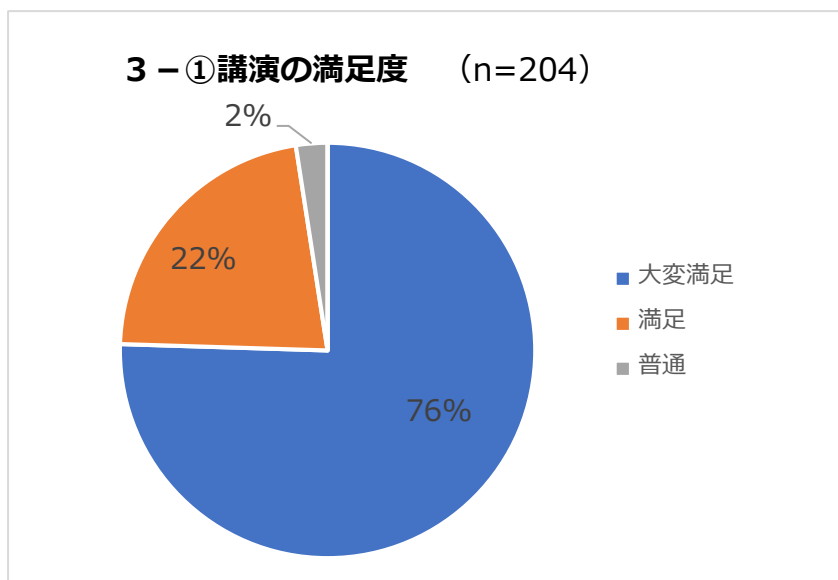


### 2 本日のフォーラムをどのようにして知りましたか。



### 3 本日のフォーラムの感想をお聞かせください。

#### ① 講演



#### 【幼保こども園関係者】

- 素晴らしいお話の数々に感動した。
- 金田一先生の正直なありのままのお話、心に響いた。お体に気をつけて、これからもご活躍を祈ります。

#### 【学校関係者】

- 若者や子供たちが大変素直になっていることは、学校で子供と接して感じている。それが、これからの日本にとって憂うべきことだと気づいた。自分も含めて、自分に正直な言葉を言えるようにしていきたい。
- 日々の子供たちとの話の中で伝えていることがお話の中で聞けたので、大きく間違っていなかった。これからは自信を持って伝えていけると感じた。
- 金田一先生のお話がとてもおもしろかった。心に留めておきたい言葉がたくさんあった。努力ではなく、楽しいから、好きだから、おもしろいからやれる。共感した。
- 言葉の力を知ることができた。紙の本の魅力を感じることができた。
- 内容が幅広く、話術も巧み。素晴らしい講演だった。
- 本を読むことが最近好きになった。小中高生のころは苦手で全く続かなかったが、今は読みたい本との出会いを大切に、好きだから続けているのだと気づかされた。
- 自分に合った本（人）を探してみたいと思う（今は松下幸之助さん）。
- 自分の読書の指針になった。日本語・言葉・読書の重要性、長所などもなるほどと思った。現在の本を取り巻く環境や読書や考え方の傾向についても教えていただき、今後生徒やまわりの人に自分の言葉で伝えていきたいと思う。
- 金田一さんの思いが感じられてとても良かった。
- 勉強になるお話が随所にあったが、本を読んでみようと思える言葉をいただけるとさらにありがたいと感じる。
- 古典を読むことの重要性、こんな時代だからこそ、と改めて考えさせられた。
- 言葉の持つ意味、言葉の大切さを改めて感じた。言葉の働き、コミュニケーション、自分で考えるといった話も大変興味深く聞かせていただいた。

- 一流の考えを聞いて良かった。
- テレビでもおなじみの口調で親しみやすく、また、無理なく読書に取り組みそうなことを聞かせてもらった。読書を通して、自分の意見を持つことが大切だと感じた。
- 先生の優しさが伝わるとともに、本への愛が伝わる素晴らしい講演だった。
- 本や言葉にまつわる話が聞いて大変参考になった。
- 言葉が豊かだと世界が豊かになる。言葉を耕すには、本が良い。そのことが様々なお話から理解できた。
- とても楽しみにしていた。期待以上の楽しさ、おもしろさだった。「本は優しい」ですね。
- お話を楽しく拝聴した。私もアナログ人間なので「紙の本」を読むことに大賛成。辞書の話は大変興味深かった。先生が薦めてくださったポイント「古典を読む」「海外に行くと人と話す」「いろいろな人の考えを知る」読書を今後の人生で実践したい。
- 幅広い知識や経験から本や言葉に関する話につながり「へえ」と思いながら感心して聞くことができた。
- 金田一先生のユーモアを交えた語り口で楽しく聞いた。教員の立場からは耳の痛い点もあったが、「本は怒らない」という言葉は心に残った。
- あっという間に時間が過ぎてしまった。惹きこまれる柔らかい話し方、もちろんお話もすごくおもしろかった。楽しい時間、ありがとうございました。
- 日本で同じ言葉を使っている、お互いの感じ方考え方でその言葉の意味のとらえ方が変わってしまうことが「言葉で感じ考える」という先生の言葉で痛感した。
- 易しい本だけではなく、難しくてもおもしろい本を迎えに、見つけにいけるような出会いをまず自分自身が増やしていけたらと思った。
- 言葉を知ることは、自分の考えを作ること。そのために、自分とは今まで関係のなかった世界の言葉にふれることの大切さがよくわかった。
- いろいろと大切なことを知り、学ぶことができた。
- 期待を裏切らない興味深いお話だった。「言葉によって、人間がつくられる」というのは本当にそのとおりだと思った。
- 大変著名な金田一先生のお話が聞いて良かった。紙の本、辞書が良いというのは同感で、偉い先生がおっしゃっていたので確信できたように思う。
- 自分の考えや気持ちをつくるもの、本は怒らない、待っていてくれるなど、子供たちに伝えたいメッセージを金田一先生の言葉で伝えていただき、ありがたかった。
- とても楽しく聴かせていただいた。本の楽しみ方がいろいろわかったように思う。できていないことが多くてちょっと落ち込んだ。
- とても良い内容だった。先生の言った、「ニュースで言っていることを信用するのではなく、まず疑うこと」が大事。今の子供は素直！本当にそう思う。もっとたくさんの人に聴いてもらいたかった。もっと広報すべきではないか。
- 金田一先生のお人柄から、本に接することの大切さや、人としての生き方が伝わってきた。コミュニティの大事さも改めて感じさせられるものだった。
- 本や読書について、色々な考え方を聴けたと感じた。読書のハードルが下がった。
- 会場まで来るのが大変だったので、オンラインで見られるようにしていただきたい。
- 会場には様々な年代の人がいて、全員を巻き込んで話すことの難しさがあると思うが、金田一先生の話は会場全体に響くものだったように感じる。
- 会場全体と対話してくれたイメージ。
- テレビ等で拝見することの多い金田一先生の貴重でおもしろいお話を聞くことができ、すごく良かった。読書だけではなく、幅広い物事に対する大切なことを教えていただけたので、大事にしていこうと思う。
- すごくわかりやすい言葉でお話しいただき良かった。
- 貴重な機会をありがとうございました。

- 大器晩成は、実は大器免成など知識をアップデートすることができた。
- 本のはもちろんですが、言葉についても考える機会になった。
- 金田一先生のお話を聞いて良かった。
- 一生のうちに金田一先生を生で拝見できるとは思っていなかったのも、とても良い機会に恵まれたと思っている。学生さんも多く参加されているようだったが、めったにない機会になったのではないかな。最近では金田一先生の名前すら知らないという学生も多いが(テレビを見ていない子供が多いうえに、本も読まない、辞書も持っていない生徒が多い)、きっといつかこの機会の貴重さがわかる日が来ると思う。
- 本筋からは逸れたことかもしれないが、読書感想文はみんな嫌いなものなんですね。私自身嫌いだったので安心する反面、では読書感想文の価値って何なのかな、と考える機会にもなった。結論、無理矢理にでも本に出会わせる機会となる点と、学生時代に長文を書くほぼ唯一の機会であるという点に価値が置かれているのではないかと思った。金田一先生流に言うと、課題本が決まっている場合、無理矢理読まされる本ほど嫌なものはないということになるが…。しかし、自由選択である場合には、自分が何としてでも、辛うじてでも読める本を探さざるを得なくなる。子供の読書の有無は、家庭環境が大きく影響する。宿題と言う体で無理矢理本を読むきっかけを、効率よく作り出すのが読書感想文という宿題なのだろう。さらに、普段書かないほどの文章量を書く機会にもなって一石二鳥である。そういうことかなと。そしてやる機会自体がないと、人間は成長しない(ふれることがない)。話は飛ぶが、金田一先生の話の中で、努力が実は無駄で、飛び抜けた人間は好きなことを突き詰めてきたというお話があった。実業家の森岡毅さんも似たようなことをおっしゃっていた気がするし、私もその通りだと思う。だとしたら、みんなが嫌いな読書感想文ってやはり意味がないということになるのではないかな？そんな事を課している学校教育って何だろう？と思った。しかしそこで、人間は強みだけを知っていてもいけないのかもしれないと私は思う。強みだけで生きられる人間は残念ながら限られていると思う。強みや個性が賞賛される現代においては皮肉なことだが、日本の学校は「凡人」のための大衆的教育に価値があるのではないかと思った。人間の「飛び抜け」具合には個人差がある。大多数の「平凡」な人々が、世の中を渡っていけるようにするのが、学校という場所なのではないかな。だからみんなが嫌いな読書感想文も、「読書の機会を作る」「文章を書かせる」という機会確保のために残っている文化なのではないかな。人間の脳の機能も、一部だけが発達しすぎてしまうと様々な障害が出てしまうこともあると『運動脳』の筆者は述べている。脳の機能も「バランス」が大事なのだそうだ。得意を伸ばすことは自信にもつながるしとても大事なことだが、得意不得意はあれど、様々な機会を満遍なく経験するというのも、人間には大事なのだろう。「凡庸な学校教育」が叩かれがちな今だが…。いかにも「学校関係者らしい言い分」と言われそうだが、何にせよ、「苦手だな」「何でこんなことしなくちゃいけないんだよ」と思いながらも、知らぬ間に経験値となり、脳トレとなっているかもしれないし、騙し騙し完了させる力も必要なのかもしれない。自分の「出来ないこと」に目を向けるのってとても嫌なことではある(そんなこと言うとやはり嫌々やっている事に意味なんてないし力はずつかない！と言われそうだが、上記の結論に戻る)。あとは、芭蕉のお話や、「大器晩成」「四十不惑」のお話も大変おもしろかった。人生長いから、色々な経験をすることが大事。SNSに親しみ、自分の好みに最適化されたものしか目にすることがなくなった現代人においては、特に大事になってくるだろう。金田一先生がおっしゃっていた通り、「視野を広げる」機会をくれるのも読書。そんな機会を自分自身も持ち、子供たちにも提供したい。
- 本を読むことの意義を伝えたり、本に親しむ言葉かけをしたりする際、どのようにしたらよいか、学ぶことができた。何より金田一先生の話してくださるエピソードひとつひとつがおもしろく、語り口が優しく、聞き入った。
- 元々、読書は好きですが、読むジャンルが偏ってしまっていたと気づいた。金田一先生のお話を聞いて、古典なども含めて、色々なジャンルの本を読みたいと思った。

## 【教育委員会関係者】

- 大変興味深いお話。知らなかったことがたくさん知れた。私の活動にも参考になる内容が多く、いろんなアイデアが思い浮かんだ。温かいお人柄もあり、とても聞きやすかった。
- 「言葉は考えをまとめ、表現する道具である」という話があったが、その言葉を知るためのリソースが本なのだ改めて思った。
- 国語の第一人者の言葉の一つ一つが、本質をついており、納得できる内容ばかりだった。
- かなり攻めたパワーワードが飛び出したが、金田一氏の素直な正直な言葉だと受け止めた。多様な話を聞けてとても楽しかった。
- わかりやすい内容で、自分がおもしろいと思うことを続けることの大切さが伝わった。
- 言葉は考える手段、感じる手段であることについて、改めて重要であると感心した。
- 金田一先生の柔らかい口調のご講演に惹きこまれ、これからの本、活字との付き合い方のヒントをいただいた。
- 辞書から見る深い言葉と本の世界。金田一先生のお人柄で、温かくほっこりしながらたくさんのメッセージが伝わった。
- 読むことは大切だと思う人は多いが、読書感想文の本は、難しく、そこから離れてしまうこともあり、強制することではないと思った。最も美しい日本語を使うための谷川俊太郎さんの言葉が印象に残った。
- 1時間半があつという間だった。楽しいお話、大切なことが一つ一つの言葉につまっていたと感じた。
- 言葉が何のためにあるのか。伝えるためだけでなく、感じることを、考えることを、その気持ちを形にできるのが言葉であり、読書することでその世界が広がる。いわば、「自分の考えをつくること=自分をつくるための読書がある」ということに大変納得できた。何時間でも聞きたいと思うご講演だった。
- 不惑が「不或」、衝撃だった。古典・本読もう、見方・感じ方広げよう。言葉を大切にしたい。
- 「言葉」は自分の考えをつくるためのツールで、そのための読書。というお話が印象的だった。
- 金田一先生のお話はとてもおもしろくて楽しかった。YouTubeなどでつい時間をつぶしてしまいがちだが、紙の本を読んで知らない言葉を見つけ、人とのコミュニケーションに役立てたいと思った。
- 必ずしも読書に関する話題ばかりではなかったが、メモをしたくなる言葉がいろいろあった。実際にたくさんメモしました！
- 金田一先生のお人柄に惹かれた。難しい言葉を使わずに本を薦めていただき、無理強いしないところが余計に読みたくなる。少し難しい今まで読んだことのない本に挑戦してみようかと思う。
- なぜ本を読むのか、「言葉が増えると、考える手段、感じたこと、その気持ちを形にでき、自分の頭の中をはっきりさせることにつながる」と聞いて、確かにそうだとすっきりした。
- 言葉のもつ役割や、努力よりも興味を持って好きなことに取り組む大切さを知ることができた。本はそういう言葉や考える力を身につけたり、世界を広げたりできるので、これから少しずつ読書量を増やしていきたい。
- おもしろいと思える分野の、おもしろいと思うところを読むくらいの身近さ、気楽さがいいのだと改めて知ることができた。本の世界を子供たちにも自分にも今よりもう一歩入り込んでいけるものにしたい。
- 最後の谷川俊太郎さんの言葉が印象に残った。「自分にうそをつかない言葉をつかうこと」これは難しいことだなあ。
- とても穏やかな、楽しい時間を過ごさせていただいた。ありがとうございました。本を読みたくなった。
- 「自分でよく考え、誠実でうそ偽りのない言葉をつかうこと」が心に残った。
- 本は読み切らないといけないものと思っていて、読み始めることに躊躇してしまう。先生のお話から、途中で止めても怒らないという言葉に、ほっとした。
- ちょっと読んでみようかなと思う金田一先生の講演だった。本は優しいなと思った。本の良さがすぐく伝わり、誰かに話したくなった。また、教職に就く身でありながら、今まで読んでこなかった本がたくさんあるので、ちょっと読んでみようと思う。

- はじめは何も資料もなく長時間の講演はきついなーと思っていたが、金田一先生の世界観に引き込まれた。自分もどちらかというと、本を読むのが苦手、読書感想文も嫌いという人間だが、少し本を手にとってみようかなと思った。「GRIT」や「本は怒らない」というキーワードはおもしろかった。

### 【図書館関係者】

- 本を読むことについて、いろいろな視点からのお話がうかがえて、とても楽しい時間が過ごせた。
- 気軽にいろいろな知識を学べた。
- お話は良かったが、金田一先生の普段考えておられることを聞かせていただいただけで、今回のフォーラムに沿ったものではなかったと感じた。結局、「本を読んでください」では、それはそうだ、となった。
- フランクなお話大変良かった。
- とてもわかりやすくおもしろいご講演だった。
- 何回聞き直しても（読み直しても）、本は怒らないという言葉が印象的だった。

### 【公民館関係者】

- 楽しいお話だった。
- とても楽しかった。
- 様々な反対の言葉でおもしろかった。歴史は長く生きていけば色々と違うことが増えてくる。
- さすが金田一先生という感じで、話の引き出しが多くて飽きることがなく、惹きこまれた。

### 【図書ボランティア・読書ボランティア】

- 金田一先生の話、参考になりました。
- わかりやすく、楽しかった。金田一先生の人間性が伝わってきた。
- お話が魅力的で、今日ここに来られたことを幸せに思う。
- 楽しいお話をありがとうございました。
- 私も読書感想文は嫌いです。
- 60代、目もショボショボしてきて、少し本から遠ざかっていたが、講演を聞いてまた新しい本を読んでみようかなと思った。とても楽しかった。
- 自分の考え、自分だけの言葉、自分に素直な心情を大切にしていきたいと思う。それが自分を生かす、他人も生かすことだと思った。飽きないお話をありがとうございました。

### 【一般】

- 貴重なお話を聞いてとても嬉しかった。言葉の変化に敏感なのはさすがだと感じ、それを生でお聞きできて光栄。私も辞書をよく読むので、言葉の持つ力について考えていきたいと思った。
- 金田一先生のお話が楽しかった。そして本や言葉に対する愛があって、とても良かった。
- 本のおもしろさを聞いて良かった。
- 大変楽しく拝聴した。ここ数年は本から離れがちだったが、もう一度いろいろな本を手にとってみようと思う。四十にして不或。ちょうど四十歳なので、新しい分野にチャレンジしたい。
- 本を通して自分で考えること。そのためには、言葉を知ることが大事なのだととても素直に腑に落ちる体験ができた。今後この国で生きていくうえで、それがどれだけ必要かをいろいろな角度から納得できた。現在就活中で、勇気が出た。
- 大変おもしろく拝聴した。メモを見たりすることなく、ご自身の経験や感想を交えていろいろなお話をしてくださり、興味深く有意義な時間を過ごせた。
- 「言葉は、感じる・考える道具」という話はなるほどと感じさせられた。楽しいお話ありがとうございました。本も読もうと思った。

- 「言葉」に対する見方、世相のお話もからめて、金田一先生の「優しい」お話に魅了された。
- すごく楽しかった。古典を読むことがおすすめで、3,000年前の人の言葉がわかる。印象的だった。
- とてもおもしろかったです。
- 努力至上主義世代です。報われない努力も人生の一つの色彩と思う。
- 逆説的に世の中をとらえ、おもしろかった。話のつながりが足りないように感じた。
- 「古典を読みなさい」と耳にしてきたことを金田一先生が語られ、難しいので避けていたが、少しでも読みたいと思った。そして、美しい日本語を使うには、「自分に素直に正直に」は納得させられた。
- 押しつけではなく、金田一先生らしい雰囲気、本を読むことの意義を教えていただいた。
- 話したいことが次々湧いて出るようで、とても良かったです。
- 体験談を交え、楽しい講演だった。
- 紙の本を大切に。本を読むことで言葉を知る。本は何回読んでも怒らない。わからないことで努力し続けるより、好き、おもしろいことを求めていく。自分の考えをきっちり持つ。心に残ることをいっぱい教えていただいた。
- すごくわかりやすかった。読書は続けていきたい。
- 先生の「深さ」を感じた。
- しばらく読書から遠ざかっていたが、また読んでみようと思うきっかけになった。
- 読書することから良い考えや言葉を知る大切さを知った。
- 一部ホワイトボードがあると良かったかなと思った。本屋にある本を図書館に買ってもらっていたので、少し反省した。
- とても楽しいお話で子供に聞かせたかった。本を読みたくなった。定期的に来ていただきたいと思った。
- 大変勉強させていただいた。美しい言葉、正直な言葉を獲得するため、もっと本を読まなければと思う。
- 新しい言葉を知る魅力を教えていただけて本当に感謝です。
- 金田一先生の優しい語り口に癒され、かつ内容は深くとても良かった。
- 「自分の思ったことを正直に」という谷川さんの言葉が残った。
- 紙の本を大切にしたい。紙のにおい、インクのにおいが好き。本屋さんが少なくてもさみしく思っている。
- 本屋で土地の文化がわかるということにうなずけた。
- 言語学や国語教育についてのお話も聞かせていただき、本当におもしろかった。
- 谷川氏のお話が一番グッときた。美しい言葉をつかえるようになりたい。
- 最高。
- すごく透明感のあるお話を伺って、とても楽しく聞かせていただいた。「古典」を読めという先生のお教えで、一度手に取ってみようかと思う。
- 「本は優しい」ことがわかった。今までそれほど読んでこなかったもので、今からもっと本を読んで、自分の言葉で話せるようになりたい。
- もっとお話が聞きたかった。
- これから実践していきたい事を教えていただいた。
- 先生のお話は、楽しく聞かせていただいた。本はもともと大好きだが、最近読めてないので、改めて手元にある本を開けてみたい。
- 金田一先生のお人柄が好き。大器免成、四十不或のお話、心に沁み入りました。私も惑ってばかりですが、100歳までと考えるとまだまだ新しいことができそう。好きなことを追求して頑張っていこうと思った。
- 言葉の持つ力を改めて考えていきたいと思った。
- 話術、内容がさすがだった。
- たくさんのエピソードを含めた話。読書する意義の丁寧な解説。うなずいてスッと入る良い話だった。
- 人生を豊かにする話が聞けた。
- 話がとてもおもしろく、聞きやすかった。自分の中にスルスル入ってきた。



- とても楽しかったです。
- ほとんど立って講演されていたので、気持ちが伝わってきた。私自身、子育て中に読書の楽しさを思い出したので、いつからでも大丈夫だなと思った。
- 金田一先生のお人柄のうかがえるほっこりしたお話ぶりで、うかがえて良かったと思った。
- 読書により、自分の考えが整理でき、世界が豊かになるとのお話に共感した。まずは一冊をしっかりと読み込みたい。
- 思っていたのと少し違った。
- 沢山の気づきを得た。
- 「読書は自分の思考を深め、豊かにしてくれる」に共感した。色々な表現を知ることは、感動と自分も豊かにしてくれる。また何度聞いても怒らない。確かに!!
- 言葉の価値、言葉のもつ役割について考えさせてもらった。表現ツールとしての言葉をたくさんストックできるように、気軽に本を手にとりたいなと思った（気軽に付き合っても、本は怒らないので）。
- 『本は優しい』というタイトルから想像もしない内容で、大変興味深かった。「～じゃないといけない」とらわれて読書をしてきたように思う。もう若くないので、これからは気楽に気軽にいろんな読書を楽しみたいと思う。後押しをしてくださり、ありがたかった。

### 【学生】

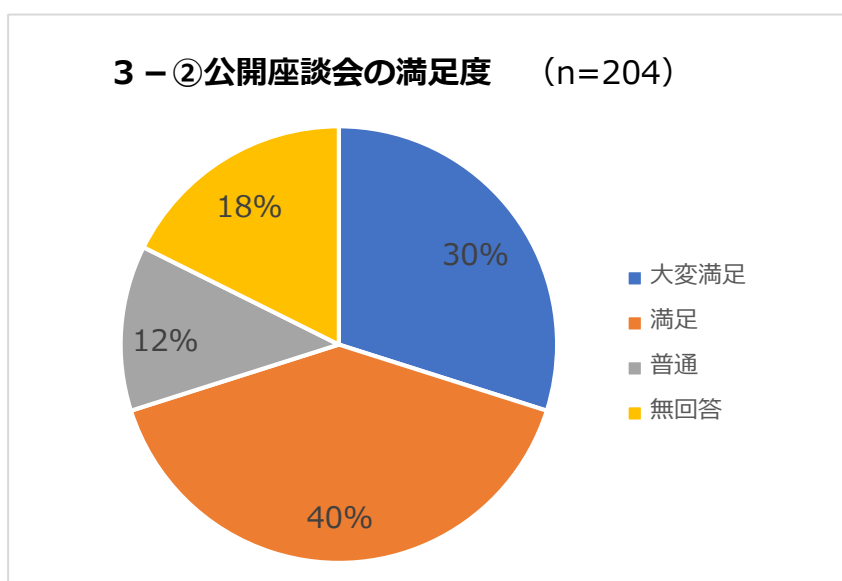
- 言葉一つでも感じ方、考え方が違うというお話がすごく心に残った。また、自分とは違う考えを持つ人の思いを聞いて、いろいろ考えることができた。
- 人生で必要なことがたくさん詰まっていた。ユーモアやハツとする言葉が多く、腑に落ちた。
- 学生の立場でもわかるようなお話だった。「若者は素直すぎる」という言葉に痛感。自分で考える人間になりたい。
- 金田一さんの赤裸々な講演に惹きこまれた。金田一さんに親近感が湧き、書店に行きたくなった。
- 人生に一つの本を探そうと思った。
- 日本の狭い世界だけでなく、海外へ行き、広い世界を知りたいと思った。
- 本の言葉にいろいろと気づかされ。言っていた魚のたとえがおもしろかった。
- 病気は努力をしても治らないのはその通りだと思った。でも、先生が本を読む努力をしたため、自分は先生の話が聞いているのかな、とも感じる事ができた。
- いろいろ聞いて良かった。
- 伝えたいことが明確で聞きやすく、理解しやすい講演だったと感じた。
- とてもわかりやすく良いことを聞いて良かった。
- とても話し方がうまくて、話もおもしろかった。
- 「本は優しい」とはどういう意味かわかった。
- 自分も好きなことは人一倍上手になれるように練習をたくさんしていこうと思う。
- 「努力が無駄」という言葉がとても印象に残り、納得した。
- 自分とは違う世界に住んでいる人と思っていたが、話を聞いているうちに、すごく身近な人なのだと思った。時々、ふふっと笑えるような話し方をされていて楽しく講演を聞くことができた。
- 金田一先生のお話がとてもおもしろかった。
- 少し話が飛び飛びだったと思った。
- 少しも飽きる時間がなく、聞き入ってしまった。普段本を読まない時間が長い私でも、少し読んでみようかなと思えた。日本語で感じることや大器晩成についてのことが印象に残っている。
- 今日のお話から、確かにおもしろいと思ったことには進んで取り組んだが、好きではないことを続けるのはなかったなと改めて思った。
- おもしろかった！ わたしも本を読むのは大好きだけど、読書感想文は嫌い。

- 死んだ魚の生の肉。語彙力が上がった気がする。
- 秀穂さんが本に対してどのような気持ちを持っているか知れて良かった。僕も本は大好きだが、読書感想は好きではない。こんな学校で考えそうなことを話してくれたので、とても聞きやすかった。
- 本を優しいとは考えたこともなかったので、今回の講演を聞いて驚いた。
- 本は優しいというのは、よくわかっていなかったが、聞いてわかった。私も何か自分の熱中できるものを探したい。
- おもしろい発表と、人とは少し違う考え方がしゃべっていて本当に楽しかった。
- 本は待ってくれるという話をしてくださり、本を読むハードルが下がった。
- 金田一先生のトークがおもしろかった。
- 少し熱かったけど、けっこう共感することが多かった。
- 趣があった。
- 金田一先生の話がおもしろかった。本に対するいろんな考え方があるのだと知った。

### 【その他】

- 「本は怒らない」という言葉。努力は無理してするものではない。好きなことは続く。それぞれ共感した。
- 金田一先生の本に対する思いや、本音をたくさん聞いて良かった。
- 金田一先生の言葉の使い方に惹かれた。30年ほど前に金田一春彦先生のご講演も同じ場所で聞かせていただいた。同じ「美しい日本語」という言葉を聞いて少しびっくりしながらも感動した。
- 知識量がすごい。金田一家としてのエピソードが良かった。井筒俊彦、中井久夫、林達也、鶴見俊輔、大岡信、谷川俊太郎みんな良い。
- 金田一京助・晴彦で育った時代だったので、そのDNAを持った人物。無知を教える本の大切さを学べた。
- 難しい言葉が使われる事無く、聞きやすくおもしろい講演だった。
- 金田一さんの話を聞いて、言葉をもっと大事にしようと思った。今からでも本を読んで語彙力を鍛える。
- 子供たちから、中・高生、大人、高齢者まで幅広い方々が集まって、たいへん良かった。また、読書推進に関わる方々も参加していた。
- 金田一さんのお話で、辞書の持つ本の魅力、中国古典の魅力、勧め等が印象に残った。

## ②公開座談会



## 【幼保こども園関係者】

- ほっこりした。
- 本屋プラグの嶋田さんのお話もっともっと聞きたい思いでいっぱい。すけのさんの絵本は購入済。

## 【学校関係者】

- 「ちょっと本でも読んでみようかな」という気持ちになった。
- 「和歌山にゆかりのある本」とのつながりができて良かった。
- 本屋プラグの嶋田さんのお話がとてもおもしろかった。メディアとしての本は、なるほどと思った。「本をおもしろがる」というテーマが良かった。
- 会場に来ていた高校生にとっては、少し自分事にするのが難しかったのではと思ってしまった。
- 3人の登壇者の方々に自分の考えを述べていただき、大変刺激を受けた。読書に対する気持ちを熱くしていただいた。行動にうつしたいと思う。
- 本を読むとは「着眼点」を知ること。これが、私の心の中にとっても響いた。楽しむ読書も大切で、学ぶための読書も自分には大切だと思う。
- 時間が長かった。
- 皆さんそれぞれの立場で、その人の言葉で本について語ってくださり、興味深く聞いた。嶋田さんの「好きなことからそれに関わる本も深掘りしていく」という考え方がなるほどと思った。
- 好きなコンテンツをもつことから、本の世界に入っていくのが良いという言葉が印象に残った。
- 本への思い、共感させられた。本を大切にしたいと思った。
- 共育コミュニティの取組に興味を持った。本のある環境づくりは大事。
- とても楽しかった。司会者の力量もあり、話の筋が通っていて良かった。
- 「嶋田さんの熱いメッセージ」「すけのさんの創作の大変さ」「土田さんの多くの人とつながりで読書と関わる」など参考になった。笠野さん、取りまとめお疲れさまでした。
- 本屋プラグの嶋田さんの話が興味深く、ずっとおもしろかった。嶋田さんの話をもっと聞いてみたいと思った。
- 三者の方、それぞれのお話が興味深く、本の魅力を知ることができた。
- 様々な「きっかけ」をつくること。そのアイデアをもらえた。
- みなさんの熱のあるお話を聞いて、力をもらえた気がする。「本はおもしろい」を伝えていきたい。
- それぞれの立場から「本をちょっと手にする」話を熱く語っていただき、参考になった。学校の子供に薦めるヒントとして、また自分の読書の取りかかりにも参考になった。
- 本屋プラグの嶋田さんが熱く本屋の現在や取組、おもしろがる方法を語ってくれておもしろかった。
- 本屋の嶋田さんの話は、教育とは異なる視点で本に親しんでもらうためにはどうしたらいいか、という工夫がたくさんあった。「おもしろがる方法」という点は教材研究につながると思う。
- 様々な本にまつわる話が聞いて楽しかった。座談会も良いが、たとえばすけのさんの絵本の朗読や政策の話じっくり聞くなど、ミニ講演会の形でも良かった（聞きたかったな）と思った。
- 本を読みたいと思いつつ、ゆっくり時間をかけて読みたいので、隙間時間にも読めるスタイルに変えていきたいと思う。
- 本とのさまざまな出会い方の事例紹介や提案がなされていたが、やはり「おもしろがる」時間があって出会っているのかなと考えさせられた。
- 本の魅力を伝えようとする熱意が伝わってきた。
- 「本に手を伸ばしたくなるしかけ」を具体的にもっとたくさん紹介してほしいと思った。提案者かな？楽しい内容ではあった。
- キョーレツな個性の嶋田さんをはじめ、共感できるお話が多かった。本をおもしろがる、ナビゲーターをつくる、読まなくていい。大事だと思った。

- 三者の違った立場から、本を読むきっかけを聞いた。参考になった。
- 本屋プラグのポットキャスト聞いてみたい。
- 正直なところ、話の柱が終始見えなかった(私の読解力不足でしたらすみません)。柱がわからない上に、一人一人が壁当てのようにボールを投げている気がして、メモを取りたいと思うような深まった考えや言葉は一つもなかった。
- 教材、キャンパス、商品。本をどう捉えているのかの三者三様の考えを引き出していただき、横のつながりで意見の交流が聞きたかった。結局、司会との一問一答を繰り返しているだけ。
- 皆さんのお話がすごく楽しそうで、こちらも思わずクスクス笑ってしまった。製作側も販売側も、色々なことを考えながら本と関わっているんだなと思った。
- 3名の方々の熱い想いが感じられ、とてもすてきな座談会だった。改めて有吉佐和子さんの作品を読んではみたくなった。素敵な出会いができとても嬉しい。
- 本に携わっている方たちでも、人に本を手にとってもらうのにどうするか悩んでいるのだから、自分がわからないのは当たり前だと思った。読書に限らずだが、与える側と受け取る側の両方にある程度の熱量がないと成立しないのだと改めて思った。
- 本屋プラグさん、おもしろい方だなと思った。Podcast 配信で本の紹介とは文明の利器を感じる。
- 事例からヒントを得ることが多かった。もう少しざっくばらんに、登壇者の皆さんのおすすめの本など聞いてみたかった。
- 学校で勤めているので、特に、土田淳子さんのお話を興味深く聞かせてもらった。

### 【教育委員会関係者】

- 良い雰囲気での座談会で、優しい気持ちで聞くことができた。ファシリテーターの方も素敵で、このように話を進めたいというお手本になった。
- 好きなものをつきつめていくことを評価することがやっぱり大切なのかな。そのひとつが本であるかどうかかなのかな。
- 生の声で「こんな本」と言ってくると興味を持つ。そんな機会が必要なのかなと思った。
- 本屋プラグに行ってみてみたい。本を紹介している Podcast を聞いてみたい。しかし、ちょっと営業的か。
- 様々な立場の方の取組や考えをうかがうことで、読書をあまり難しく考えず、気軽に気楽に取り組みたいと思った。
- 嶋田さんのエネルギーに圧倒された。楽しそうに語ってくれる人は新たな本好きを育てるのだと思った。
- それぞれの観点からのお話を聞くことができ、本の選び方、読み方のヒントを探ることができた。
- 「ちょっと」の意味を「途中でやめてもいい、あらすじだけでも」と気軽に考えて良いと楽になった。
- 実践の紹介はリアリティがあって良かった。
- 嶋田氏の取組「Podcast」は、教育現場でも模倣してできるのではないかとアイデアをいただいた(1年生国語の「おすすめの一冊」を放送部と連動して行うなど)。また、「ちょっと本でも～」と思うには、まず、大人が本を読むという習慣が根付かなければ文化とはならない気がした。そういう意味で、このフォーラムの意義は大きいと思う。
- それぞれのキャラクター、ご経験に基づいたお話がおもしろかった。
- 本屋の嶋田さんの圧が強くておもしろかった。
- 本屋さんに行ってみてみたいと思った。棚をゆっくり見て、気になる本を手にとってみたい。
- 失礼ながら、うまくまとまらない、とりとめのない話になりそうな予感がしたが、良い意味で予想が裏切られた。
- 本が大好きな方々がそれを仕事にしており、説得力がありうらやましいと感じた。本屋さんにもぜひ立ち寄りたい。
- 人それぞれによって、本との出会いで世界が広がっていくことがわかった。

- 本を手取るためのアプローチについて、いろいろな工夫を知ることができた。
- 立場は異なる方々の本の楽しさを語ってくれ、再認識することができた。忙しさから離れていたが、自身、好きな読みたい本を読んでみようと思った。
- 自分の好きなことから世界が広がるという言葉が、すっと落ちた。
- 嶋田さんの熱量に押された。3人の方の立場が違うので、それぞれのお話が聞いて興味深かった。
- 笠野さんがとても上手にファシリテートしてくれていたが、もう少し3人での対話があればおもしろいと思った。
- 三者三様の登壇者で、ファシリテーターも回すのが大変そうだった。個人的には、おもしろい組み合わせだと思いながら聞いていたが、あのような3人はどこのコミュニティにもいると思うので、そのような方をつなげる核になりやすいのは、学校や公民館なのかと考えた。

### 【図書館関係者】

- 様々な立場の方からの意見を聞くことができて良かった。
- いろんな立場の人の話を聞けたので楽しかった。司会の方は大変そうだった。
- みなさんそれぞれ個性的で興味深くあつという間だった。
- 大変おもしろい。今後の取組のヒントになるお話を聞いて良かった。
- 自分以外の本に関する思いが聞いて嬉しかった。図書館での貸出冊数を増やすために役立ちそう。

### 【公民館関係者】

- 嶋田さんがすごく熱い方で、金田一先生と全然違い、差がすごかった！戦隊モノの話がおもしろかった。

### 【図書ボランティア・読書ボランティア】

- 嶋田さんのお話はとてもおもしろく、参考になった。「本屋プラグ」行ってみようと思う。
- それぞれの方の熱い思いは伝わった。若い人に伝わればいい。私たち大人にはどうかな…。本屋プラグには一度行ってみようと思う。また、身近に本がある環境はすごく大切だと思うので、やはり子供たちには学校図書館の整備が必要だと思う。
- 職種の違う3名の方のお話、とても魅力的で本をもっと読みたいと感じたし、本のプロがいらっしゃる場に行きたいと思った。
- 話の中に出てくる本など実物があれば「読んでみよう」という気持ちも出てくるかもしれない。

### 【一般】

- 絵本を製作する方、本屋さんを営む方がいらっしゃるの、もう少し本に手を伸ばしたくなるしかけ、工夫をお聞きしたい。
- 皆さんそれぞれの本に対するアプローチ、考え方、とても参考になった。
- おもしろかった。3人の特徴が出ていた。
- 入口は何がきっかけでも良いと思った。個人的には今の市立図書館がお洒落なばかりで、昔の市立図書館が好きだったので足が遠のいていたが、本を手取る機会の一つとしてまた行ってみようと思う。本と関わる皆さんの熱い気持ちを聞かせていただく機会がとても有難く、楽しかった。今まで以上に本を身近に感じた。
- ご登壇者のそれぞれの視点にふれることができて大変おもしろかった。電子書籍サイトを利用しがちになっていたが、本屋に足を伸ばそうと思った。
- 本をおもしろがるというところでは、小さい子供がデジタルに興味を持つのは、ごく当たり前のようになっているが、その前に絵本に出会える機会があればと思った。
- 皆さん親しみやすい語りで良かった。特に嶋田さん、本屋プラグに行ってみます！

- 嶋田さんはなかなかおもしろかった。まちの本屋さん、頑張ってください。
- 本への情熱が十分伝わった。改めて本の良さがわかった。
- テーマを統一した各自の意見を聞きたかった。
- 嶋田さんの、「本は最後まで読まなくてはいけない、というのではない」との言葉はとても心が楽になった。難しくてさわりだけ読んだ本がたくさんある。
- 本が身近なものに感じられた座談会だった。
- もっと他に登壇者がなかったのか？「本に手を伸ばしたくなるしかけ」のポイントがわかりにくい。土田さん学校内のことばかり話されても…。一般人向けのことを言ってほしい。本屋、絵本の営業か！
- 新鮮に感じられた。各パネラーが良かった。
- いろいろな方が取り組まれていることを知ってよかった。
- さっそく、有吉佐和子さんの本を読みます。
- それぞれの方の話聞くことにより、本に対する興味が湧いてきた。
- 本屋プラグさんに行ってみたいと思った。わかやまペイが使えるので近々行ってみようと思う。
- 本屋プラグに行ってみようと思った。
- 自分の小・中・高校時代。学校の図書館の開放時間がとても少なく、利用したくても思うように利用できなかった記憶が強くある。夏休み中、読書感想文の宿題があっても図書室の利用は制限があり利用できなかった。そこから見直しができるれば、学生たちはもっと読書好きになるかもと思った。
- 「本は絶対に最後まで読まなくてはならない」という固定観念がずっと自分の中にあっただので、それが少し取れて気が楽になったような気がする。
- 嶋田さんのお話、楽しかった。すけのさんの本は、表紙がきれいで、おすすめの本の実物があればと思った。嶋田さんぐらい学校図書館の司書さんも子供たちに熱くお薦めしたら本を読みそう。読んでみたいなあと思う子供、増えそう。
- 皆さんの本への気持ちが伝わってきておもしろかった。
- 本屋プラグ嶋田氏のお話が聞きやすかった。
- ファシリテーターとパネリストの話が一致していなくて、聞いていて疲れる。
- いろんな視点から考えられたので良かった。
- 司会の方のまとめが素晴らしかった。
- Podcast 聞いてみたい。でも 90 分はちょっと長いかな？
- 「好き」の幅が広がりそうなお話がいっぱい、聞きに来て本当に良かった。「紀の川」読んでみます。
- 本を読みたくなりました。
- テーマをもっと絞って討論すれば良かった。土田さんの共育コミュニティでの読書推進活動や子供たちへの働きかけは素晴らしい。
- 紀南でもそうだったが、もう少し工夫を！もっとバラエティある立場の人で熱い対談を！
- 本を読むことのきっかけが増えそう。
- みなさんの語り口が温かく、心に響いた。
- 出席者の方が始めの頃慣れていない感じでちょっと気の毒な気がした。あまり座談会を見る機会はないのでこんなもんか、と思った。
- 読書に対する嶋田さんの熱い語りは雄弁で説得力があった。
- 嶋田さんの熱のある話し方に惹きこまれた。昔読んだ紀の川をもう一度読んでみようと思った。
- 本に対するイメージ（読むのにエネルギーがいる・最後まで読まないと…etc）を少し変えてみようかな、と思った。
- パネラーのお三方の思いが聞けて、みなさんそれぞれのお立場でアイデアを出し、日々試行錯誤されているのだと感じた。有吉佐和子さんの本について、決して古くない、今に通じる内容だと、紹介され再び読んでみようと思った。

## 【学生】

- 本によって世界を広げるという言葉から読書のおもしろさがわかった。好きなものから道しるべを見つけ出す。トッキュージャーが銀河鉄道をイメージしているのは、初耳だったので驚いた。
- 本に関わる方々でも立場が違っただけで、意見や考えが違うのが新鮮だった。とてもいい刺激になった。
- 「ちょっと本でも読んでみようかな」から始まって様々なお話がおもしろかった。タイプの違う 3 人のそれぞれの価値観のお話がとてもおもしろかった。
- 本について立場の違う価値観の人の意見が聞けることは良い機会だった。本に熱意のある人がこんなにいることに感動した。
- 昔の本を少し読んでみようかなと思えた。
- 本をもっと読もうと思った。
- 「読書」と聞くと自分は少しきついなというイメージがあるが、この話を聞いて読書のイメージが良いイメージに変わり、話を聞いてとてもタメになった。
- いろんな考え方があるのだと思った。
- 気軽に聞いて、本への熱心さが伝わり、わかりやすい話だった。
- 話し方が上手でとても聞き取りやすくてわかりやすかった。
- 気になった本は手に取ろうと思った。
- 人によって、本との出会いや感じ方が違うとわかっておもしろかった。
- 漫画や小説、雑誌をこれからたくさん読んで、いろんな情報を知っていきたい。
- 私も 400 ページ以上の本を 200 ページぐらいしか読めないけど、話を聞いて安心した。
- とても共感が持てた。新たな世界の扉が開かれた気がする。近いうちに本屋プラグさんに寄りたいなと強く思った。
- 本を読む活動がとても大切だと思った。本屋プラグに行ってみたい。
- 話が聞き取りやすかったです。
- あまり伝えたいことがわからない。話はおもしろかったが、「へー」で終わってしまうかもしれない。
- 一つのものからたくさんのごことに広がっていくという言葉に「確かに」と共感できた。
- 「手を伸ばしたくなるしかけ」はいろいろあるなと思った。
- 自分も大人になってからもう一回スポンジボブを見てみようと思う。
- スーパー戦隊、僕も好きです。
- 三者三様の考え方があり、仕事やその人にしかできない話があっっておもしろかった。
- 本に対する熱が伝わり、私も熱くなった。私も何か活動できたら良いなと思う。
- 共感できる部分が多かった。
- 参考になった。
- いろいろな取組で読書推進活動をがんばっているのだなということは伝わった。

## 【その他】

- 本屋さん目線と作者目線などいろいろな方向からの意見が聞いておもしろかった。
- とっ散らかっている印象。テーマに関する内容が薄すぎる感があり、あまり有意義ではなかった。
- 本を手取るしくみについて、登壇者の方々の考えを聞いてよかった。Podcast などアプローチの仕方にも色々な方法があるのだなと勉強になった。
- 4 名が本好きであり、それぞれの角度から魅力を伝えてくれた。この後、それぞれのお話をもっと聞きたかった。

#### 4 「ちょっと本でも読んでみようかな」と思うには、どのようなしかけが大切だと思いますか。ご意見をお聞かせください。

##### 【幼保こども園関係者】

- 幼稚園に勤務している。これからも子供たちのいつも手の届くところに、大好きな絵本を、素敵な本を、育ち・季節・興味に合った絵本を選んで環境設定していきたいと思う。
- 子供のころからの読み聞かせを大切にすることだと思う。温かいやりとりは心に残る。

##### 【学校関係者】

- 「おもしろさ」を伝え続ける。
- 「ちょっと本でも」のハードルを下げるにはどうしたらいいか。教員としていつも考えている。本が常に近くにあるという環境、行きやすい居心地の良い図書館や本屋さん、そして本に関わり、紹介する人（司書や教員、親、保護者）が必要かなと思う。SNS も活用していきたい。
- 著者や作品を推薦してもらいたいと心底思った。
- 「自分が好きなところをまずは読んでみる」「本のおもしろいところを、人と語り合う」「おもしろいところだけでも読んでみること」など、今は本のハードルがすごく上がっているので、もっと敷居を下げていくことが大切。
- 心が求めるときに、近くにあること。
- 「中高生への周知」と「子育て世代（PTA 関係者）への周知」
- 幼児期に本に親しむことが大切なので、近所に歩いて行ける図書館や巡回図書館があると気軽に行けて良いと思う。今もあるが、もっと細かく地域を区切ってほしい。小中高では読み聞かせ、読書タイム、本の紹介時間を設けるなど、「あの本おもしろいな」「あの本読んでみたいな」と思ってもらえる機会を増やすと良いと思う。
- 小中学校に専任の学校司書（一校一人）を配置すること。鳥取や島根のように。そうすれば大きなしかけにつながっていくと思う。
- 興味・関心に基づいて関連する本を推薦してくれるような人やアプリなどがあればありがたいと思う。
- おもしろさを伝えられる工夫、SNS の活用によって本と出会う入口を開く。古典のおもしろさは学校でも伝えていきたい。
- 本のある環境と、ある本のジャンル（内容の難易度）が幅広いものであるのが良いのではと思った。
- どんなことに興味を持っているのかを知ること。
- 気になった本をぱらぱらと見てみたいと思う。
- ブックスタートで赤ちゃんの時から本に出会うこと。今日の嶋田さんのようなおもしろい話を聞くこと。
- 本をお互いに紹介する機会があればいいと思う。ビブリオバトルなどがもっと気軽に行われればいいのではないかな。
- 本と出会う機会。身近な人との会話から本の話が出たら良い。
- 子供に対して、目を引く POP や展示の仕方かな。
- 「読まなきゃいけない」とか、「読まされる」とかいうような状況をつくらないことだと思う。身近に置きつつ、読みたくない人にはそっとしておいてあげてほしいと思う。
- 自分自身と本との出会いは、親から与えられて読み始めたこと。子供のころに周囲に本がある環境、親が本を好きだということも大切。親世代が本を読む。子育ての中で本を与えるという流れができればいい。
- 読む側が、勇気を持つこと。薦める側が本を好きであること。それが一番大切なのではと思う。スマホの動画・SNS 中心の人に、読みたくなる紹介、きっかけづくりをしたいと思う。本屋がなくなる町、県にしてほしい。



- 「答え」ではなく「考えること」「調べること」「もっと知りたい」という思考をつくっていくことだと思う。
- 「手の届く距離にあること」と「自分で選んだ実感があること」
- 「ちょっと」という気軽な気持ちで本を読んでもいい、途中で辞めてもいい、という入口の敷居の低さが良いのではと思う。
- 人に「この本おもしろいよ」と薦められると読んでみようかなと思う。友達と本のことについて話をする機会を増やすことが、本を読む人を増やすことにつながると思う。おもしろい本のことについて話ができる素敵な関係をつくることも大切なのかなと思う。
- 小学校低・中・高学年、中学生、高校生に、それぞれおもしろい、読んでほしい本の紹介を、読んでみたいなと思えるコメントを添えて、まとめて学校に配布してみてもどうか。
- 多くの場面でこの本がおもしろいというのを聞く機会を多くつくる。はじめはお洒落な雰囲気呼び込み、目を引かせる。
- 人とのつながりが大事だなと思った。
- テレビなどをつけない時間をつくってみる。
- 文化のレベルが落ちているお話は大変こたえた。自分が働く中学校でも、司書さんの影響は大きいのではないだろうか。もっと来てくれる機会や回数が増えることも大切では。
- すぐ本を手にとれる環境、読書を行動として選択できる環境、ある程度中断せずに読める環境。
- とにかくいろいろやってみる。
- 身近に本があること、そして、本の楽しさを語ってくれる人がいること。
- 本が身近にある環境をつくることを土台としてほしい。手に取って興味があるものを自分で探すことで、読者が始まると思う。講演会、座談会でもあったように、強制されても読もうとは思わない。読書には、ストレスを軽減する効果があるという研究結果などを提示すると効果があるかもしれない。座談会でもあったように、読み切らなければいけないといった固定観念をなくす声かけも大切なのではないかと思う。
- 「読書って楽しい」という経験を積ませること、興味の芽を摘まないことではないでしょうか。幼少期の「読書は楽しい」という経験は特に大事。学校でも「この話おもしろそうだから、こっちの授業してよ」と言ってくる生徒もいる。しかしそんな時に限って、課題文は違う作品で、がっかりさせてしまったり。少人数で、生徒の興味ある作品を取り扱えるような環境があっても良いなと思う。
- 手に取れるあちこちに本があること、本について語る場が増えることだと思う。
- 学校の図書室においても、金田一先生のお話を参考にして、辞書や地図帳の特集などを展示してもおもしろいなあ、と思った。

### 【教育委員会関係者】

- 図書館へ足を運ぶ手立てを考える。無理にでも出会いのきっかけが生まれるかも。今日のような話を聞くことがそのきっかけだと思う。私は、読書苦手タイプだが、まずは図書館へ行こうかなと思った。そこから書店へ、と思う。
- 「おもしろいよ」を伝えるメディアが必要。出会わせ方だと思う。
- 「活字文化の維持に紙の本を」という意見がある一方で、電子書籍の普及も進んでいる。どちらが良いか、悪いかということではなく、お互いの利点をうまく融合しながら、と考えているが、現状はいろんな課題を抱えている。
- 本そのものの魅力は本を読まなければわからない。だから、「本を読みたい」という入口（最初の一步）をつくるのが大切だと思う。どれだけ身近に感じるか、自分の興味のあることと本がつながっているかを知ることができる環境づくりが必要かと思う。
- 今日のような機会を増やすとともに、身近に本がある環境を整備することが大切だと思う。
- これからみんなで考えていきたい。

- 大人が活字にふれる機会の創出が大切だと考える。大人ができないことを子供ができるはずがない。
- より幼少の頃から絵本の読み聞かせなどにより、ふれあう機会を少しでも多く設定することが大切だと思う。
- 有名・無名・いろんな人が一言コメントで本の良さを伝える。「入口は小さく入れば深い」本の奥行きを知る。入ってみることが大切だと考える。
- 家庭で本がある環境をつくる。そうなるように地域でサポート。学校や地域で本が当たり前になり、「本っておもしろいな、手に取ってみたいな」と思う機会をつくる。本屋さん、図書館の方が本を並べるだけではない空間をつくる。町全体・県全体・国全体でそのような文化をつくっていききたい。
- 読書感想文の強制をやめる。思い切って。
- 楽しいイベントを企画してもっとたくさんの人とコミュニケーションがとれば良いと思う。
- 読書感想文を夏休みの宿題にしないようにするのは、ひとつの前向きな考え方なのかなと思う。読書感想文の代わりとして、お金を出して町の本屋で本を買うという宿題を課してみたら、自然と本を読むのかもしれないと思った。希望的観測かもしれないが。
- 現代はスマホに時間を取られているので、本を読むことが減ってきている。本の良さを再認識できるこのようなフォーラムは有効。若者たちにも流行するようお洒落で話のネタになるような発言者の存在はありがたい。書店も増えてほしい。
- おもしろい、楽しいといったアピールすることも必要かと思う。本の紹介を宣伝していくといいと思う。
- 小学生の読書感想文を、一律で同じ本を読んで書かせるのではなく、それぞれの好きな本の感想や紹介をするというふうにすれば、子供たちも興味を持って取り組めると思う。
- 手軽に手に取れること。子供については、読みきらなくていいと、周りの大人からおもしろさを紹介してもらって、間口を広げること。
- 作家の講演会や、図書館でも司書の今月のおすすめ本を入口に紹介（5行くらいの紹介文）するなど。
- 幼児・幼保小学校時代に、絵本等を通じて本に接すること。本を手にしたり、見たり聞いたり、そんな環境の中に浸ることが必要であると思う。本との出会い・機会・環境をつくる。図鑑等に接することが子供たちにとって良い。古典を読む、外国に行くこと、共感する。
- 私は全然本を読んでこなかった子供だった。今回大人の立場だったが、中高生時代に今日話を聞いておけば、本を手取る子供になったかもしれないと思うと、このフォーラムが大変大切だと思った。
- 子供は小学校では図書館に行ったり、隙間の時間に読んだり、読んでいる方だと思う。その時に感想などを求めることが苦になるだろうか。指導事項に合わせると、感想を書く指導は夏休みではない。
- 年代を問わず、本につなぐ入口をどう提供するか。個人的には家で子供に読み聞かせをしている。毎日、仕事帰りに3冊読めと言われて、クタクタで正直辛いところもある。家庭教育の根気も大事。それを支える家庭教育支援も必須だろう。

### 【図書館関係者】

- 本を読みたいと思ったときに、本に手が届く環境が大切だと思う。特に、子供たちの手の届くところに本がある事が大事で、学校の図書室の整備も重要だと考える。
- 子供たちのまわりに本があり、本にふれる機会をつくってあげることだと感じた。
- 「読書＝勉強」「読書する人＝かしこい人」のようなお高くとまったイメージから、もう少し敷居を下げないといけないのかなと思う。本を読まなさそうなイメージの人が集まる場で、本のおもしろさ、読書の楽しさをアピールすることを我慢強くやる必要があると思う。こういうフォーラムでも、結局集まっているのは、すでに本を読む人なので、その中で「本は良いよね」と言っても…。
- SNSでの宣伝。小さい頃から本にふれさせること。勉強をしに図書館に来た学生が、本を手取るような工夫（掲示物など）。

## 【公民館関係者】

- 金田一先生のお話を聞くというのは、私にとって一つのきっかけとなった。また、土田さんがおっしゃったように、人から影響を受けて本を読むということはあると思う。
- 本を並べておくこと、大人が楽しそうに読むこと。

## 【図書ボランティア・読書ボランティア】

- 図書館等での本の見せ方（ただ並べるだけでなく、展示の仕方、本への一言など）を工夫すれば手に取ってみようという気持ちになるかも。
- 赤ちゃんや幼児の頃から読み聞かせなどで本にふれ、親しむ。まわりに本を置いておく。身近に本があるようにする。
- 本の紹介で、読んでみようかなと思うきっかけになると思う。そのためには、自分でしっかりと読み込み、おもしろいと思う本でないと気持ちは届かないと思う。また、信頼できる方からの紹介でないと読む気にはならない。信頼関係とは、その人の人格やお店の雰囲気など、いろいろあると思うが、そういうものがあれば良いと思う。
- 今日は大人向けの講演だったが、子供向けに学校へ本のプロ（書店、作家、出版社、司書）が来てもらい、話してもらおう。大人向けにも図書館や本屋さんでプロの人たちのイベントや読書会をしてほしい。
- 本のある環境をつくり、整えること。教育機関での本の場を整備してほしい。
- ビブリオバトル、ストーリーテリングなど、耳や目から興味を持ってもらおうのが良い。

## 【一般】

- 座談会でもおっしゃっていたように、読む側がおもしろがるのが大切だと思う。日常で疑問を持つこと、その答えを本で探す。知りたいことはすべて本に書いてあるということを読者が知ることだと思う。
- 両親や学校の先生、親しい大人の人が楽しそうに本を読んでいると、子供たちは、最初は真似から本を読みはじめ、次第に本の楽しさがわかってくると思う。私もそうだった。本は人生を豊かにしてくれる。スマホより本を読む方が楽しい。
- 図書館でいろいろなしかけをする。
- 本屋によるフリーペーパーや、手に取ってみたいくなるPOPがあれば、自分では手に取らなかった本ともつながりやすい。対面でゆるく参加できるビブリオバトルのような読書会などで、誰かの本の好きポイントの語りを聞くのも良い。本屋や図書館主催の読書会があるのであれば、たくさん周知してほしい。
- 身近に本があり、いつでも手に取ることができること。堅苦しい内容だけでなく、本人が興味を持った内容の本について、「読む意味がない」といった偏見や先入観をまわりから植えつけないことが大切。
- 本に出会える機会を、できれば小さい頃から増やす。
- 子供が本を読むようになるには、やはり親が楽しく本を読む姿を見せるのが良いと思う。
- 作品別、作家別の特集を組んだらどうか（「かいけつゾロリ」「夏目漱石」「銭天堂」など）。
- 今日までの読書という考え方を変える。「学ぶ、成長する」という考え方を改めることが大切だ。
- 私が「本を読んでみようかな」と思い少しずつ読み始めたのは、学生の頃の現代国語の先生が「本は良いよ！」と薦めてくれたから。それと「これはどうしたら乗り越えられるのか」と解答を求めたときに、本しかなかったから。人の言葉や環境に影響されたことは確か。
- 低学年からまわりにいる大人からの影響が必要だと思う。
- 図書館やコミセン等で、本について情報発信（本の紹介、感想等）をする。
- 「無言で給食を食べている時、本を読み聞かせたり、ビデオを流す」「親が読書をする姿を見せる」「学校図書室に多くの地域のボランティアを集め、子供とふれあいをする」
- 年代別に読む本を紹介してほしい。図書館でのイベントを考えてほしい。
- 家の中、あちこちに本棚があること。親が読む。赤ちゃん、幼児への絵本等の読み聞かせ。

- 大人も一緒に読む時間を作る。子供と図書館デートをするなど、本の話をする。
- この本の「おもしろさはこれだ」「どこにあるのか」のポイント紹介がもっとあれば、多くある本の中からどの本を選択するのかを決める助けになると思う。パフェのように、楽しみを知る、教えてもらうことはありがたい。本屋プラグさんにも出かけようと思う。
- 本を読まない、ほとんど読まない層の方々に対し、「節約のために、図書館で自分の好きな本をバンバン読もう」とPRしていくのもおもしろいと感じた。ただし、無理やり最初から最後まで本を読まなくてはならないという意識（固定観念）を持たれないようなPRの仕方が必要だと考える。
- 自由な一人の時間が必要だと思う。
- リラックスして、ごろごろしたり、お茶を飲みながら読みたい。すぐに手に取れるように近くに本を置きたい。小学生の子供がいるが、学校の本が古く、ぼろぼろで汚れていて、数が少ない。昭和出版の本もある（和歌山市内）。国語力や言葉の力をつけるには、子供のうちから本を好きになれるような環境が必要。土田さんもおっしゃっていたように、新しい本、子供たちも好き。家に本がない子もいるので、機会を学校が設けてくれるといいなあと思う。
- 読みたい本が我が家で山積みになっているので、しかけがないと読まないというのが今ひとつわかりにくい、向き不向きがあるので無理に読まなくても良いと思う。しかけがあると逆に読みたくない人もいるのでは。座談会の方々の意見に賛同する。
- 本屋さん和図書館の門戸を広くする。とくに図書館は、人手不足などで数が減っていたり、サービスが不足していると思う。最近、映えを意識した図書館が多く、もっと気軽に無骨な図書館もすすめてほしい。
- 読み聞かせをしてもらうと手に取るのかなと思う。
- 大人が本を読む。
- 公開座談会でもお話しされていたように、すぐ手に取れる環境があることが、第一歩だと思った。
- 本を通じた会を開催。本を読むことが前提の参加など。
- 絵本でもどんな本でも開いてみたり、めくってみたりしたら良いと思う。
- 今日のような講演の回数を増やし、継続していくこと。
- 時短がもてはやされる近年、ネットにもおもしろいものが無数にあるなかで、今まで特に本が好きでなかった人たちに「読んでみようかな」と思ってもらうのはとても大変だと思う。自分が興味のある人が紹介してくれた本なら、手に取りやすいかなと思う。人気のYouTuberやタレントさんが出演する番組でコメント等で視聴者が参加できる形が定期的であれば、本を好きになってくれる人が少しでも増えるのかなと。好きな本に出会える人が一人でも多くなりますように！
- 休日が増えれば本を読む時間がつくれると思う。
- 日常生活の中ですぐ本に手が伸びる環境づくり。大人が楽しそうに本を読んでいる姿を子供に。
- 今日のフォーラムのようなきっかけもとても良いと思う。
- 読書感想文の評価を再考すること。
- 好きなものが載っている本から始める。
- 図書館を身近に感じられるようになった。時間のあるとき、図書館で夫婦ですごしています。リクエストを聞いてもらえるシステムが良いと思う。
- 企業への移動図書館や、講演。職場で人権研修のように毎年、読書講演会など。職場で健康診断のように一年間で、どんな本を読んだかの発表。ビブリオバトルを小学生の頃から公立の学校でも。産婦人科、保健師さんによる幼少期からの絵本の啓発。地域の方に図書ボランティアを広く呼びかける。本屋とスーパーのコラボ。福祉施設、ヘルパーさんへの読書の大切さの講演。ヘルパーさんが訪問の際に本を紹介、貸し出し。移動販売。
- 回答にはならないかもしれないが、アニメ『文豪ストレイドッグス』はたくさんの作家と代表作が簡単に結びついておすすめだと思う。マンガやアニメから知識を得て、もっと深く知りたい、と本を買うこともある。入口は何でもありでいい。

- 読書好きの人々が、自分の言葉で、身のまわりの方はもちろん、不特定多数の方々に発信して口コミでつながること。
- 無理強いはいらないこと。好きなものを好きに読んで、自由に感想を話し合っ、人それぞれ感じる事が違くと気づくこともおもしろいと思う。決して誰かの答えを押しつけない!
- <読書すること、本を読むことへのイメージ改革（捉え方を変える）>  
小さい子供は本が嫌いという感覚はあまり無いと思う。読み聞かせてもらったり、挿絵をパラパラ見たり、覚えてたのひらがなを追って読んだりすることは、むしろ好きなのではないかと。歳を重ねるごとに嫌いになっていくことが多い気がする。それは、「読ませよう」と促されたり、難しい本（「年代に合った」…と大人が考える本）を薦められたりするからではないかなと考える。多くの人はもしかしたら、「本を読む」というイメージを、書を読む・活字を見る・読書感想文などの、国語教育的要素を重ねて捉えているのではないかと思う。少なくとも、自分はそう捉えていたことに気づいた。でも、金田一先生も嶋田さんもすけのさんも、地図帳や時刻表、図鑑や雑誌も含めて本を楽しんでおられる。「読書・本を読む」ということが、もっと幅広く、自由なものだというイメージに変わっていくことが大事だと思う。

#### <本を手にとれる環境づくり>

土田さんのお話にあったように、「ちょっと本でも…」と思った時に、そこに本がある環境であるというのは、絶対に必要だと思う。そういう意味では、学校図書館の役割はとても大きい。「いつも開いている」状況をつくるのは当然のこと。でも、予算上学校に1人司書を配置できない、安全面の問題で特別教室を無人で開放できないなど、様々な理由でそれが叶えられない現状があるのだと思う。「うちの高校の図書館は、いつ開いてるのかわからないくらい、いつも閉まっている」知り合いの高校生から聞いた話。もどかしいですね。

#### <今回のようなフォーラムや講演会、イベントの開催>

今回のフォーラムで、金田一先生や登壇者の方々のお話をお聞きして、本を読むことについて、自分なりに思考したり、気づいたりすることが多々あった。参加された方の中で、有吉佐和子の『紀ノ川』を手にとられた方、帰りに本屋に寄られた方、本についてお友達と語り合われた方…たくさんおられると思う。そんなきっかけは、なかなか個人では作りにくいので、行政や団体が企画していただけるとありがたい。

- 本の紹介を耳で聞きたいので、和歌山市や県からの発信を Podcast でゲストを招いたりして5分でも10分でもいいので定期的に行ってほしい。
- 「こんな本がおもしろかった」という情報で手軽に興味を持たせる手段が必要。とはいえ、今は文章も「TikTok化している」と言われる時代。ただ、POPを書いたり、SNSに感想を書くだけではダメなのかもしれない。私のまわりに読書家が少ないので、難しさを強く感じる。

#### 【学生】

- 好きだと思う本から世界観がもっと深くなっていくようなしかけ。
- 和歌山のローカルな本が身近に手に取れる常設コーナーと、魅力的なポップや飾りつけがあると興味を引くと思う。
- 相手に対する本の見せ方が大切。
- 読んでほしい年代に合わせて、その年代が引き寄せられるような表紙にすることが良いと思う。
- まず、本を好きになることが大切だと思う。
- 読書に対してのイメージを少しでも良くすることが大切だと考える。
- 表紙をおもしろそうにすること。
- 少しでも読書ができる場所を増やしてみることが大切だと考える。
- 表紙と題名を読んで、読みたいと思えるようにおもしろくする。
- 本のチラシをたくさんつくる。
- 本の素晴らしさやおもしろさを広げるしかけが大切だと考える。

- 最後まで読まなくても大丈夫という考えを持っておくことが大切だと思った。
- いろいろなものにほんの少しでも興味を示してみる。
- 身近に読みたい本があるということ。
- 表紙のインパクト。
- 自分の好きなことについての探求心と、本がたくさんある環境が近くにあることが大切になると思う。
- 読書感想文はやりたくないけど、それをやってみることで本を読めるようになると思う。
- 本の置く位置を上にして、「あれ何だろう」と思わせる。
- 本との出会いを増やす。
- 本のある環境こそ大切なしかけだと思う。
- 人が手に取れるところに置く。堅苦しいものではなく、ポップなものでいかに人々を引き込むことができるかが大切だと思う。
- 今のアニメでも本が元ネタのものが多くあると思うので、それをきっかけとするのが良いと思う。
- 参加型などがあればもっと楽しめると思う。
- 参加型。スクリーンで映像も一緒に流す。
- 本が気になると思わせる事が大切。
- 本を読まない人は、本を読むより大切なこと、優先すべきことがあるからこそ読まない人がほとんどだ。だから、本は読む人は読むし、読まない人は読まない。そう割り切って、読む人が楽しめるしかけを増やすといいと思う。
- 講演と座談会をお聞きして、本の出会いはとても些細なことで、様々な切り口で、本が広がるとわかった。意見としては、本屋の店員や図書館の司書に聞くことが重要だと思う。

### 【その他】

- 嶋田さんのあらすじ紹介をしてもらえたら、読みたくなる。
- 金田一先生もおっしゃっていたが、ドラマ原作などから入るのも良いのではないかと思った。
- しかけではなく、知的好奇心の赴くまま、本は読みたいから読むのではないか。社会背景が違ってしまったので、しかけてもダメな気がする。
- 学生には「あの人が薦めるなら」や「あの人が読んでるなら」など、好意や尊敬、あこがれの対象者をきっかけとした流れを作る。
- 「まずは本を」ではなく、既に興味のある分野を掘り下げるための「本」の活用。
- すけのさんのお話と少し被りますが、目を引く色彩、絵、装丁だったり、おもしろいタイトルの本をさりげなく置いたりするのも手かと思っている。また、嶋田さんや土田さんのようにその本のおもしろさや読みどころをアピールして本の内容に興味を持ってもらうようにするのも良いと思う。
- 読書感想文も良いと思う。子供たちが本にふれ、読書の持つ魅力がわかるように努力を続けてほしい。

## 5 その他、お気づきの点がございましたらお書きください。

- がんばれ図書館司書。プレゼン能力大事ですね。
- 一時保育、本当に助かった。またこういう機会があれば、お願いしたい。
- 両方ともパワポがなく、トークオンリーで、素晴らしかったです。パワポは私や高齢の方は×です。
- 出演者の関連本（著作）販売を考えてほしい。
- 金田一先生やすけのさんの本の販売を口ビーでしてほしかった。
- 有名な金田一さんのお話がとても楽しかった。
- 貴重な機会を設けていただき、ありがとうございました。

- このような、素晴らしい内容ですのに、会場が満席でないのは、残念だなあと感じた。広報は難しいと思いますが…。次回はより、多くの方が参加できる場になればと思う。
- 登壇の光が強かった。
- 受付を名前別にするなど、密を避ける配慮など、関係者の方々には大変なご苦労があったことと思う。このような素敵な講演会を企画していただいたことに感謝している。ありがとうございました。また来年も素敵な話が聞けたらと思う。また中高校生が参加していて、とても良いなあと感じた。
- 運営等ご苦労様でした。ありがとうございました。
- 紀南の長谷川さん、紀北の金田一さんときて、来年は誰が来るのかとワクワクしている来場者は多いのではないのでしょうか。できる範囲で継続していただければ、とてもありがたいです。
- 今回も素敵な講演会ありがとうございました。とても素敵な時間を共有できた。毎回素敵な人を呼んでいただき、参加するのを楽しみにしている。